

大学

文学部 国文学科

国文学演習Ⅰ(1)上代a

中野謙一教授

『古事記』の謎を多角的に探り、
社会に通用する力を養う。

712年、元明天皇に献上された『古事記』。現存する日本最古の書物であり、資料が限られるため多くの謎に包まれています。上代文学を専門とする中野ゼミでは、3年次の「国文学演習Ⅰ」において『古事記』下巻を輪読。学生は原文を読み深め、各自の解釈・考察を伝え合いながら、編纂者が描こうとした日本や天皇家の歴史に迫ります。コロナ禍において、学生の発表はそれぞれオンラインで実施。意見交換も活発に行います。「聞き手を納得させる根拠のある意見を組立てて、レジュメは正確な文章で丁寧なまとめ。こうしたゼミ活動に積極的に取り組み、社会に通用する批判的な思考力、論理的なプレゼンテーション能力を鍛えてほしい」と期待を込める中野先生。文学研究はもちろん、自己成長の場としてもゼミを充実させています。



愛知淑徳の授業

生徒・学生の意欲に応え、一人ひとりの可能性を広げる愛知淑徳学園のさまざまな授業を紹介いたします。

中学校

愛知淑徳中学校

音楽

金子泰子教諭

感動をわかち合いながら
心をのびやかに育む、音楽の力。

「風わたり 歌声流る」という一節が校歌にあるように、愛知淑徳にはいつの時代も明るい歌声が響いています。2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、歌唱の授業がしばらくの間休止。中学1年生の音楽では、校歌や学園創立記念歌の意味、楽譜の読み方、音楽史などを学んでいます。金子先生は「中学は合唱、高校はミュージカルなど、学園祭をはじめとする学校行事に歌や音楽が欠かせません。美しいハーモニーの基礎となる音取りの積み重ね、仲間と主体的に励む合唱練習など、音楽を通して生徒たちは継続力や協調性、人を思いやる心、豊かな表現力や感性を磨きます。音楽はみんなのでっけり上げるものだからこそ、多くの学びがあるのだと実感しています」と語り、校舎に歌声が戻る日を待ち望んでいます。

